

2022年3月期 第1四半期 決算の概要

2021年10月11日 訂正

株式会社今仙電機製作所
東証 1 部・名証 1 部 証券コード：7266

I .2022年3月期 連結業績見通し

II .2022年3月期 第1四半期決算概要

III .事業トピックス

I .2022年3月期 連結業績見通し

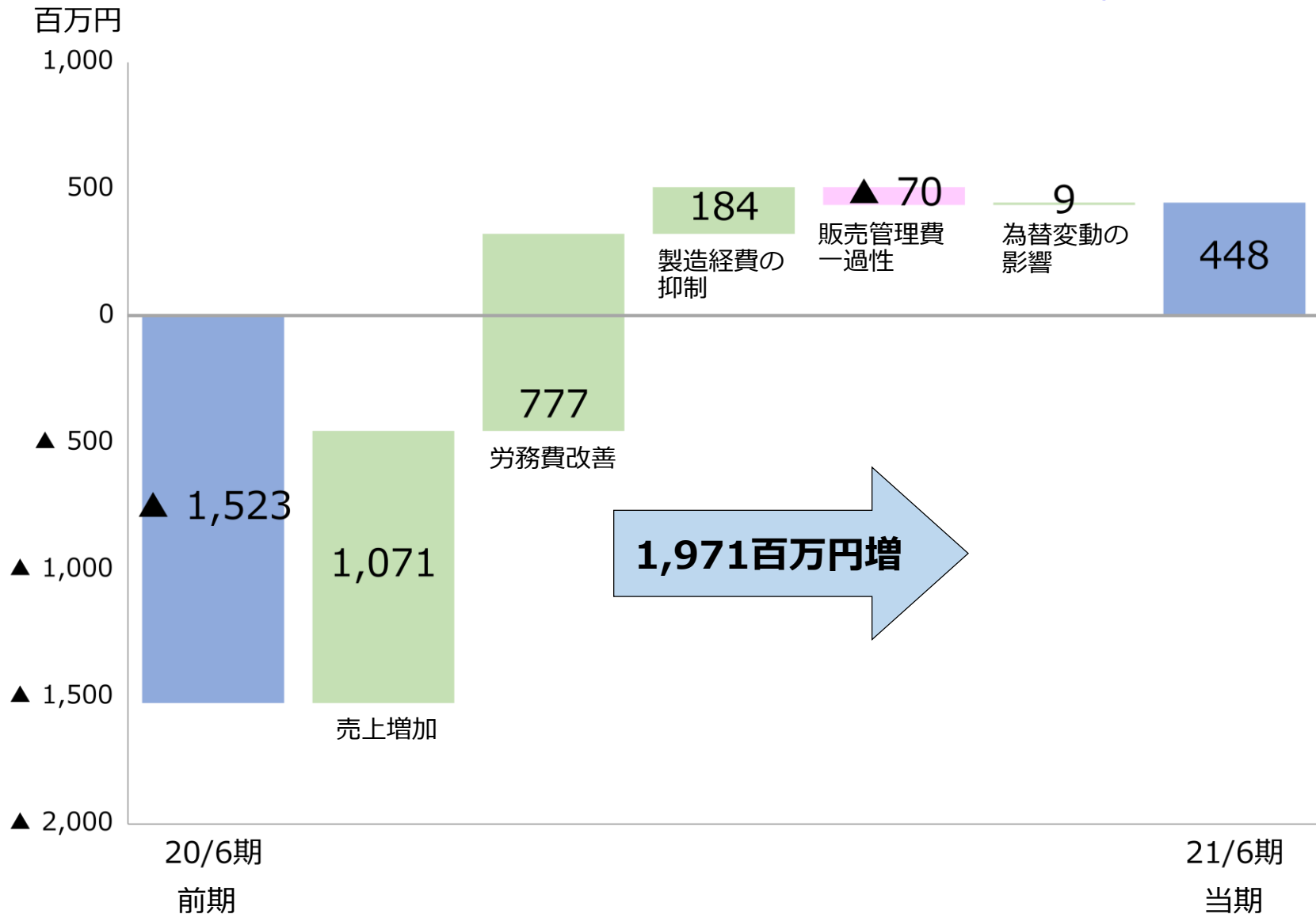
単位：百万円	前期 (21/3期)	当期予想 (22/3期)	増減額	増減率
売上高	87,096	92,900	5,804	6.7%
営業利益	▲ 790	1,590	2,380	—
経常利益	▲ 581	1,760	2,341	—
当期純利益	▲ 3,081	420	3,501	—
配当	15円	20円	5円	—

6月7日に22年3月期 業績予想を開示しました

Ⅱ.2022年3月期 第1四半期決算概要

単位：百万円	前期 (20/6期)	当期 (21/6期)	増減額	増減率
売上高	19,021	22,649	3,628	19.1%
営業利益	▲ 1,523	448	1,971	—
経常利益	▲ 1,609	776	2,385	—
当期純利益	▲ 1,839	344	2,183	—

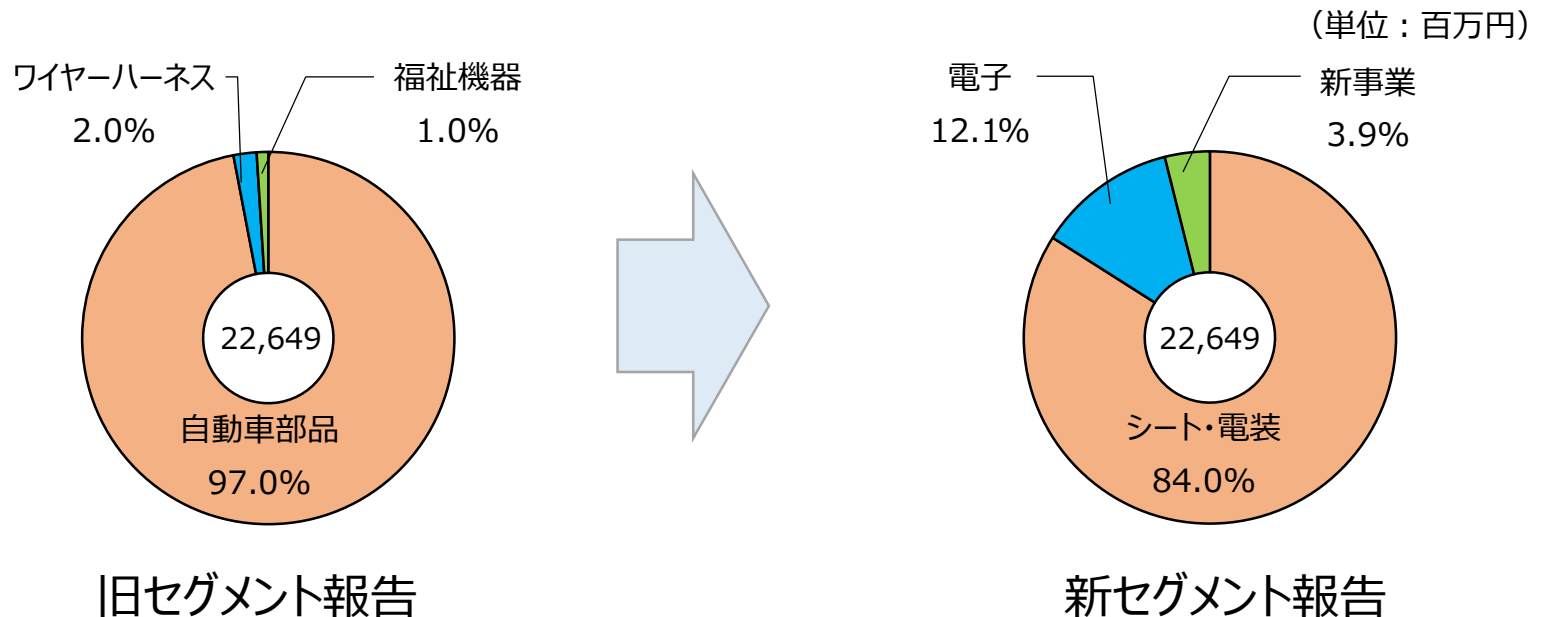
為替	USD : 20/6期	108.86円	→	21/6期	106.09円
	CNY : 20/6期	15.59円	→	21/6期	16.38円
	THB : 20/6期	3.48円	→	21/6期	3.50円



22年3月期から事業セグメント報告を変更します

Challenge to New Imasen

事業の種類別 売上高構成

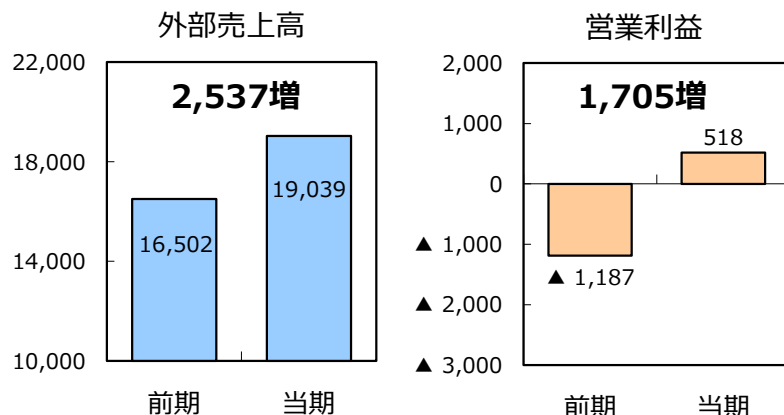


企業集団の状況をより詳しく表示するため、セグメント報告を変更します
当年度からスタートした「中長期経営計画2029」に定めた通り、「シート・電装」
「電子」「新事業」を中核に据え事業運営を進めて行きます

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

シート・電装事業



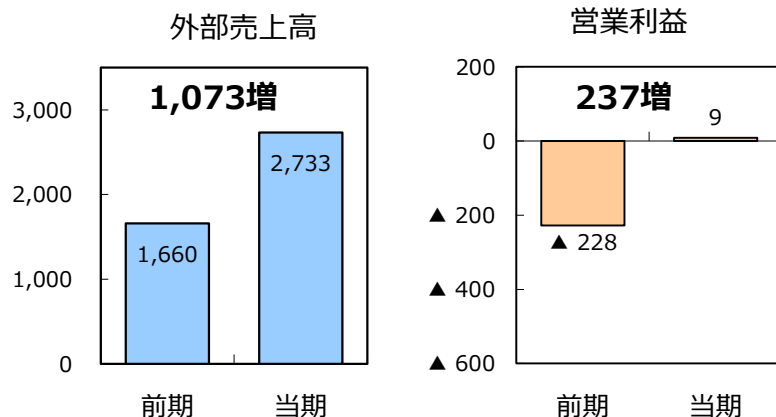
<売上高>

中国における生産回復により増収となりました

<営業利益>

増収効果および原価改善により増益となりました

電子事業



<売上高>

国内の生産回復により増収となりました

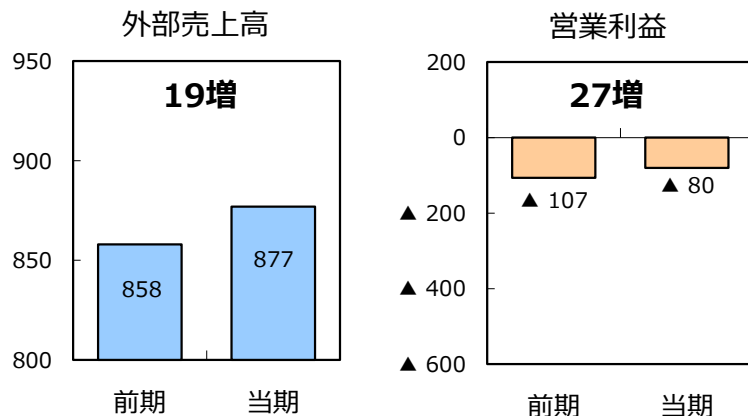
<営業利益>

増収効果および原価改善により増益となりました

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

新事業



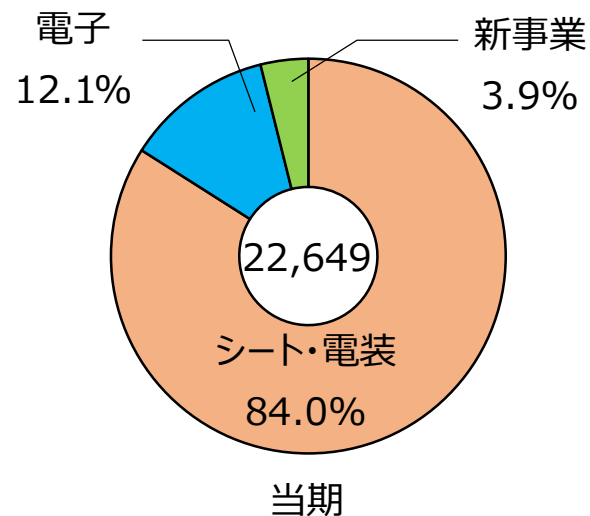
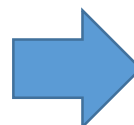
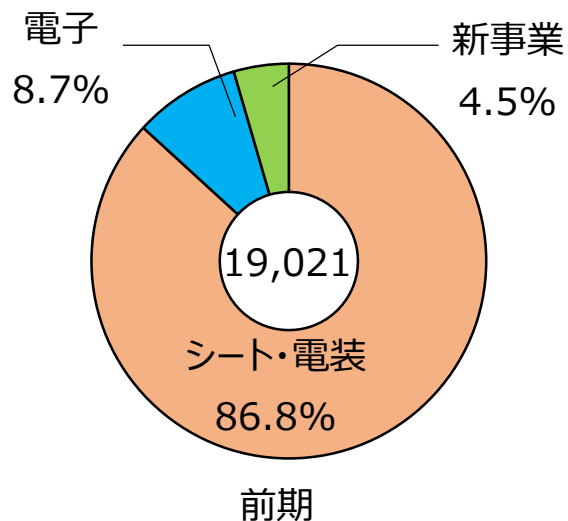
<売上高>

ハーネス事業(工作機械向け)の生産回復により増収となりました

<営業利益>

原価・生産性改善により営業損失は縮小となりました

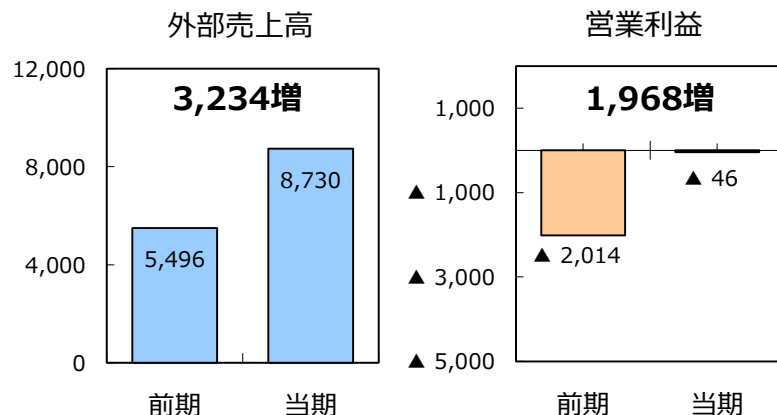
事業の種類別 売上高構成



(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

国内



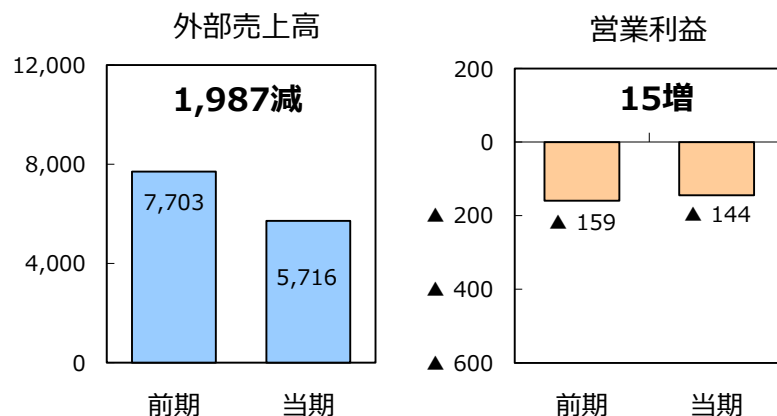
<売上高>

半導体影響があるもののコロナ影響から生産回復となり増収となりました

<営業利益>

自動車事業では黒字を確保しています
地域全体では営業損失となりました

北米



<売上高>

半導体不足の影響により減収となりました

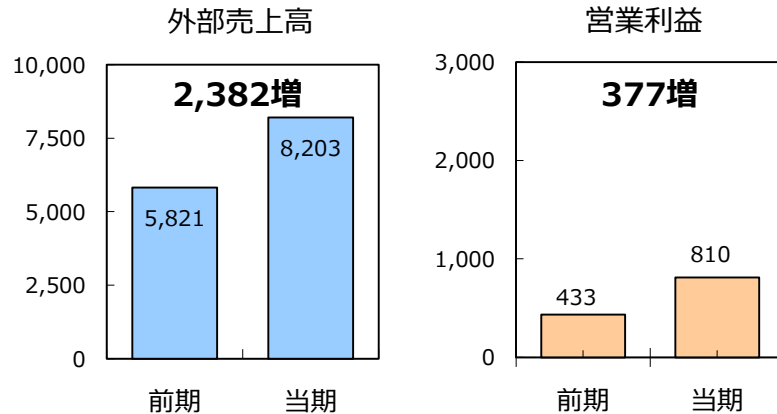
<営業利益>

営業損失となりましたが、生産性・原価改善が進んでおり、赤字幅は縮小しています

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

アジア



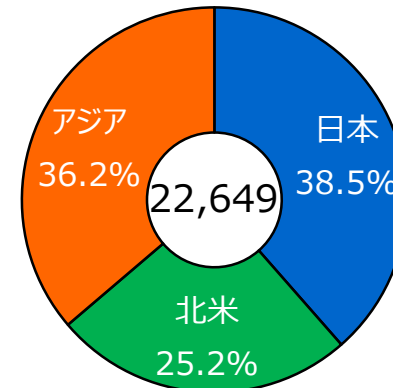
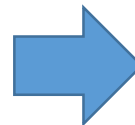
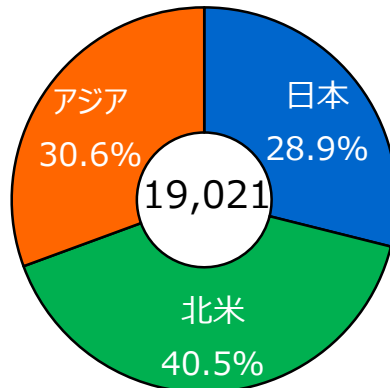
<売上高>

中国地域における生産回復により増収となりました

<営業利益>

増収効果および原価改善により増益となりました

事業の地域別 売上高構成



前期

当期

(単位：百万円)

Challenge to New Imasen

設備投資

	前期 (20/6期)	当期 (21/6期)	増減額
国内	354	879	525
北米	27	94	67
アジア	314	128	▲ 186
合計	695	1,101	406

・国内

電子事業の開発強化を目的に広島第2
テクニカルセンターを建設しました

・北米

省人・合理化設備を導入しました

減価償却費

	前期 (20/6期)	当期 (21/6期)	増減額
国内	591	※ 476	※ ▲ 115
北米	85	75	▲ 10
アジア	287	303	16
合計	963	※ 854	※ ▲ 109

減価償却費の変動内での投資抑制に
努めてきたことから減少しています

※の部分を訂正しております

Ⅲ.事業トピックス

シート・電装事業

IB-Techに省人・合理化設備を導入しました

組立ラインの一部にロボットを導入し試用していましたが、十分な効果が認められたことから、新製品の量産開始に合わせ溶接から組立まで全工程にロボットを活用した省人・合理化設備を拡大導入しました。

省人による加工費の低減、ロボット加工による品質の安定を図ります。

この合理化設備は事業収益体質向上に大きく寄与するものと考えています。



ロボットラインの外観①



ロボットラインの外観②

電子事業

広島に第2テクニカルセンターを建設しました

拡大している電子事業ですが、今後の更なる飛躍のために第2テクニカルセンターを建設しました。これにより、現状に対し4倍までのエンジニアが勤務可能となりました。

また自動車の電子化に伴い電磁環境両立性評価(EMC評価)が必要となっているため、EMC評価設備を含む多くの試験設備を導入しました。

得意先の要求する製品を、「より早く」開発することで電子事業の飛躍を目指します。



広島テクニカルセンター外観



EMC評価設備

ESG経営の推進

岐阜工場に太陽光発電設備を導入しました

E

IMSENグローバル開発・研修センターに続き、岐阜工場に太陽光発電設備を導入しました。これにより岐阜工場が使用する電力の一部(20~25%程度)を再生可能エネルギーで発電します。

今後も再生可能エネルギーの活用をはじめとする脱炭素社会の実現に向けた取り組みを展開してまいります。



屋上全面に太陽光パネルを設置



最大電力300W/枚の太陽光パネル

Trust & Challenge

Challenge to New Imasen

- ・本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- ・実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所

グローバル経営事業部 経営企画課 IR担当

TEL 0568-67-1517

URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>